

Free Paper Oral 1 (I-OR01)

Chair:Hideo Ohuchi(National Cerebral and Cardiovascular Center)

Fri. Jul 7, 2017 8:40 AM - 9:30 AM ROOM 2 (Exhibition and Event Hall Room 2)

8:40 AM - 9:30 AM

[I-OR01-04]CRT super-responderの DCMにおける左室壁運動回復について-2D speckle tracking imagingを用いた検討-

○内海 雅史¹, 瀧間 浄宏¹, 安河内 聡¹, 武井 黄太¹, 田澤 星一¹, 中村 太地¹, 川村 順平¹, 浮網 聖実¹, 岡村 達², 上松 耕太², 瀧口 洋司² (1.長野県立こども病院 循環器小児科, 2.長野県立こども病院 心臓血管外科)

Keywords:心臓再同期療法, スペックルトラッキング法, ストレイン

【はじめに】心臓再同期療法（CRT）は同期不全を伴う心不全の非薬物療法として有効である。小児においても先天性心疾患、心筋症症例の心不全に対して有効であるが、局所の壁運動の回復過程については知られていない。【目的】当院で実施したCRTが奏功したsuper-responder症例の左室壁運動の回復過程を定量的に評価すること。【対象および方法】当院でCRTを実施した拡張型心筋症（DCM）3症例（CRT実施時年齢は11ヶ月-1歳5ヶ月）。GE社 Vivid E9、EchoPAC work stationを用い、CRT実施前から1年後の左室駆出率（LVEF）及びspeckle tracking法を用いGlobal strain：Longitudinal(GLS)、Radial(GRS)、Circumferential(GCS)、time to peak RS(septal-lateral, SD)を解析した。【結果】CRT前のLVEFは15.9%、21.0%、16.3%。3症例ともCRT後1年でLVEFはほぼ60%に復した。2症例でGCSが先行して回復し、3ヶ月でCRT施行前の約2倍に達した（-4.8→-10.8、-3.4→-9.1）。術後6ヶ月以降はGRS、GLS、GCSが並行して改善し術後1年でEFと同様に正常化した。また、time to peak RS(SD)は全症例で1週間以内に正常化していた。【考察】CRT後の心機能回復期の初期には左室中層の壁運動が寄与し、その後は左室全層が一様に回復していく可能性がある。